

水泳授業の準備における 家庭の負担軽減を！

町田市議会 2023年6月定例会 一般質問 矢口まゆ

毎年、この時期に市内保護者から聞く “水泳授業”に関する負担

- スクール水着を買いに行ったら、安いものが売り切れていて高いものを買わざるを得なかった。
- ゼッケンをつけるのが大変。
- ラッシュガードの申請はなんで必要なの？
- チャックのないラッシュガードがほとんど売ってなかった。チャックタイプの方が着脱しやすいし選択肢も多いのに。
- スカートはなぜだめなの？スカートのあるものを選びたい。
- 上下で分かれているものは着脱しやすいから便利なのになぜだめなの？

市内の小中学校の水泳授業に関するお便り

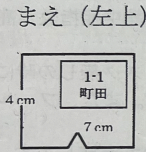
(2022年夏)

- ・水着はなるべく黒または紺色（スクール水着）、帽子は**全学年黄色**となっています。
- ・新しく水着を購入する場合、**女子用水着のスカートタイプ**のものは避けてください。（泳ぎの妨げになるため）
- ・学年・組・氏名を白い布に油性マジック（黒）ではっきり書いてください。

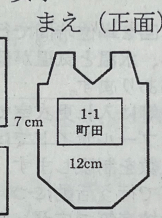
女子は胸のところへつける。
男子は右前腰のところへつける。
・**ラッシュガード**・・・保護者から申し出があったときのみ着用可
紺か黒のもので女子は胸のところに名札をつける。
原則、フード・紐・ファスナーのないもの。

※必要に応じて、ラッシュガードを使用したい場合は事前に必ず担任までご連絡ください。なお、その際は安全上の理由からチャックやフード等の無いもの、派手な柄でないものをご用意ください。

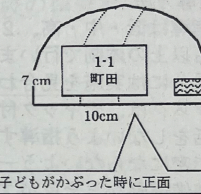
男子



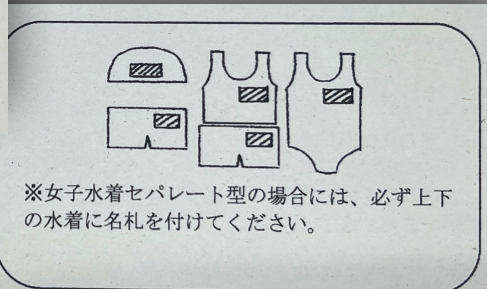
女子



帽子

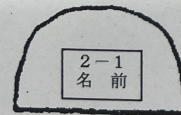
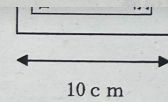


・日光アレルギー等の理由でラッシュガードを使用したい場合は、事前に担任に連絡帳でご確認ください。色や記名などは水着と同じ扱いです。ラッシュガードはフードがついていないものに限りです。



女子は、上下が分かれていないワンピースタイプのもの（水泳用であれば腰にフリル等がついているものや長い丈のものも可とします。）をお願いします。

レジャー用の水着は、体育としての水泳には不向きです。「スクール水着」タイプで体にフィットするもの、また、金具のついていないもの（長い丈のものも可とします。）をご用意ください。量販店で販売されているもので構いません。



帽子の色 1年：水色 2年：青 3年：赤 4年：オレンジ

5年：黄色 6年：緑

②ラッシュガードの使用について
紫外線アレルギー等で着用させる場合には、華美でないものにしてください。また、安全上の理由からフードやファスナーがないものにしてください。

水着（黒・紺）※サーフパンツ、スカート付き、腹部が出るビキニタイプではないものをご用意ください。

水泳帽（青・紺） バスタオル ビーチサンダル ゴーグル（必要な人のみ）

学校によって家庭の負担に差が出ているもの

- ・ ラッシュガードの申請の要不要
- ・ ラッシュガードの形状（チャックがあるかどうか）
- ・ スカートタイプ、セパレートタイプの禁止
- ・ 名前の白い布の貼る範囲（貼る枚数）



学校によってはこの制限はない。制限していない学校で問題が起きていないのであれば、制限する必要はないのでは。家庭の負担を増やしてでも必要な制限なのかという視点も大切にしつつ各学校見直しを！

学校によっては、水着の細かな色や形状の指定の撤廃も！

(2022年夏)

3 水着について

今年度も、プールに入る回数が限られます。水着については、本お便りにあるものを基本としていただけると幸いです。お子さんの成長の程度や状況により難しい場合は、御家庭にあるもので対応していただいても構いません。ただし、華美なもの、物に引っかかる等して動きが制限される可能性のあるものは避けてください。

4 準備しておくことについて

(1) 水着

例年は男女ともに水着や色を指定していますが、今年度は水着を使用する頻度も少ないため、色や形の指定はありません。可能であれば、水泳に適した水着（ワンピース型やセパレート型、競泳水着など）をご用意ください。

3 水着

・今年度はご家庭にある水着を着用してもよいです。ただし、学習で使用するものなので華美なものはお控え下さい。（その場合、白い布での記名の縫いつけはしなくてもよいです。）

・水着、バスタオル、サンダルは、防水性のあるバッグに入れてください。

（バスタオルは片側にゴムが付いていて、スカートのように体に巻けるものが便利です）

・水泳帽、水着には、次のように記名してください。（白い布に記名して縫いつける）

水泳帽

水着



このような取り組みをしている学校の情報を共有し、できる限り家庭の負担を軽減できるよう、学校教育部でも協力を！